

# 曾田 裕司

教授

研究業績

2026年4月1日現在

著書・論文等の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の編者・著者名、該当頁数	発行・発表年月
著書（共）	日本音楽表現学会編『音楽表現学のフィールド2』東京堂出版 担当：第II部第5章「子どもの音楽表現という様式—不確定性の新しい射程」pp. 238-253	2016. 9
著書（共）	柴田賢一・森みゆき編『保育・幼児教育 5領域の内容と指導法』学文社 担当：第9章「音楽表現の内容と指導法I」pp. 92-100	2018. 11
論文（単）	「ブライアン・ファーニホウの作曲技法における『コンプレキシティー』」『ベルク年報』8、pp. 140-148	1999. 1
論文（単）	「From Form to Frame: Ruth Crawford Seeger's Prelude No. 7」『音楽表現学』8、pp. 1-16	2010. 11
論文（単）	「John Cage, Zen Buddhism, <i>Haiku</i> , and Romanticism: A Comparative Study」『比較文化研究』97、pp. 47-59	2011. 6
論文（単）	「Musical Acceptance of "Asia" on the West Coast: Immigrants, Exoticism, and Modernism before 1945」『比較文化研究』98、pp. 125-133	2011. 9
論文（単）	「音そのものをとらえる—幼児教育における音遊びの美学—」『音楽表現学』9、pp. 31-44	2011. 11
論文（単）	「乳児期の前言語的音声とジョン・ケージにおける『言語の音楽化』の比較研究」『比較文化研究』107、pp. 53-61	2013. 6
論文（単）	「保育者養成のための教育原理における系統主義と経験主義をめぐる諸問題」『越谷保育専門学校研究紀要』2、pp. 27-33	2014. 3
論文（単）	「保育における音楽表現のプラグマティズム的理解について—『表現』テキストを手がかりに—」『保育士養成研究』31、pp. 21-30	2014. 3
論文（単）	「鑑賞教材としての近代西洋音楽史における主観的表現と客観的表現」『比較文化研究』116、pp. 23-31	2015. 4
論文（単）	「幼稚園における歌の選曲要因としての時間という観念」『次世代育成研究・児やらい』12、pp. 3-12	2015. 6
論文（単）	「保育の『表現』領域における幼児の『変化する音楽表現』への着目」『尚綱大学研究紀要 人文・社会科学編』48、pp. 125-135	2016. 3

論文（単）	「個別性と共同性を結ぶ音楽—音遊びの会におけるジョン・ケージ的側面と特有の側面—」『比較文化研究』121、pp. 183-194	2016. 4
論文（単）	「環境音楽の視点から見た保育の環境音—潜在する音楽の発見—」『次世代育成研究・児やらい』13、pp. 3-10	2016. 7
論文（単）	「倉橋惣三の音楽表現観—自発性の概念を中心に—」『尚綱大学研究紀要 人文・社会科学編』49、pp. 59-69	2017. 3
論文（単）	「心の基盤形成に資する音楽表現—音楽心理学と脳科学の知見を援用して—」『次世代育成研究・児やらい』14、pp. 3-11	2017. 6
論文（単）	「倉橋惣三の音楽表現論における『無我』概念の源泉—鈴木大拙の仏教思想およびフレーベルの教育思想との比較研究—」『比較文化研究』127、pp. 45-56	2017. 7
論文（単）	「ジョン・ケージが仏教を通して見たヘンリー・ソローの音楽論」『比較文化研究』130、pp. 11-21	2018. 2
論文（単）	「コードを用いた創作指導法の考察」『次世代育成研究・児やらい』14 別冊、pp. 11-20	2018. 2
論文（単）	「ピアノ練習における『相転移』を記述する理論についての予備的考察—現象学的エスノメソドロジーを中心に—」『尚綱大学研究紀要 人文・社会科学編』50、pp. 61-70	2018. 3
論文（単）	「ジョン・ケージにおけるダダイズム受容の再検討—禅における生の絶対肯定を確認する道程として—」『比較文化研究』133、pp. 117-127	2018. 10
論文（単）	「ヘンリー・ソローにおける天地の音楽—スフィアとセレスティアルの観念をめぐって—」『尚綱大学研究紀要 人文・社会科学編』51、pp. 31-43	2019. 3
論文（単）	「音楽の日常性と非日常性—幼児の音表現における同一性を中心に—」『比較文化研究』136、pp. 173-182	2019. 7
論文（単）	「音を共に出すこととしての『共奏』の諸相—合奏を越えて—」『児やらい』16、pp. 3-12	2019. 7
論文（単）	「ジョン・ケージにおける自由の諸概念—鈴木大拙の見地にもとづく比較研究—」『比較文化研究』139、pp. 109-121	2020. 4
論文（単）	「生の発現としての効果音と静寂としての無効果音の共存—音入り絵本読み聞かせにおける意味のあり方—」『児やらい』17 臨時増刊、pp. 85-95	2020. 5
論文（共）	「領域『表現』の研究—指導法のあり様を志向して—」『児やらい』17 臨時増刊、pp. 167-186 共著者：生野金三・曾田裕司・森みゆき・高塚桂子	2020. 5

論文（単）	「保育の音表現における自由の諸相とその基層」『児やらい』17、pp. 3-14	2020. 10
論文（単）	「ソロー『森の生活』を領域『環境』の視角から読む」『児やらい』17(2)、pp. 15-32	2021. 1
論文（単）	「手作り楽器における（非/再）レディ・メイド化の円環—オクタビオ・パスのデュシャン論に基づく比較研究—」『児やらい』18(1)、pp. 43-53	2021. 10
論文（単）	「散歩という生き方—ヘンリー・ソローと幼児の比較研究—」『比較文化研究』149、pp. 1-13	2022. 10
論文（単）	「ドゥルーズ＝ガタリの哲学から見る保育の指導計画—幼児の表現が作動する時空間—」『比較文化研究』158、pp. 113-125	2025. 1
論文（単）	「なりきることを生きる幼児—ドゥルーズ＝ガタリの哲学に基づくなりきり表現の考察—」『比較文化研究』160、pp. 41-51	2025. 7
その他（単）	書評：「トレヴァー・ウィシャート著、坪能由紀子、若尾裕訳『音あそびするもの よっといで』」『音楽表現学』10、pp. 33-36	2012. 11
口頭発表（単）	「ジョン・ケージにおける主客二元論の超越」第 61 回日本音楽学会全国大会（於：愛知芸術文化センター）	2010. 11
口頭発表（単）	「実験音楽の実践者としての子ども—音あそびの美学的基礎づけに関する試論—」日本音楽表現学会第 9 回大会（於：上越教育大学）	2011. 6
口頭発表（単）	「ジョン・ケージにおけるアナーキー概念の複合性について」日本音楽学会第 62 回全国大会（於：東京大学）	2011. 11
口頭発表（単）	「乳児期の喃語とジョン・ケージにおける『言語の音楽化』の比較研究」日本音楽表現学会第 10 回大会（於：山梨大学）	2012. 6
口頭発表（単）	「音楽鑑賞教育におけるマテリアリズム的傾向に関する諸問題」日本音楽表現学会第 11 回大会（於：いわて県民情報交流センター アイーナ）	2013. 6
口頭発表（単）	「幼児の音楽表現に見られるプラグマティックな側面について—組織的音楽と自在な音楽表現の統合的把握—」日本音楽表現学会第 12 回大会（於：帝塚山大学）	2014. 6
口頭発表（単）	「音楽様式としての幼児の音楽表現」日本音楽表現学会第 13 回大会（於：沖縄県立芸術大学）	2015. 6
口頭発表（単）	「子どもの『変化する音楽表現』を教員・保育者養成においてどのように取り上げるか」全国大学音楽教育学会第 31 回大会（於：山口県国際総合センター海峡メッセ下関）	2015. 8
口頭発表（単）	「音遊びの会が問いかける自律と結びつき—ヘンリー・ソロ	2016. 3

	「一とジョン・ケージを手がかりに一」日本比較文化学会第 28 回九州支部大会（於：北九州市立大学）	
口頭発表（単）	「ヘンリー・ソローの思想に内在する音楽的性格—ジョン・ケージの美学との比較から—」日本音楽表現学会第 14 回大会（於：拓殖大学北海道短期大学）	2016. 6
口頭発表（単）	「安定した心の発達に寄与する『思いのままに楽しむ』音楽表現—音楽心理学と脳科学が示唆するもの—」全国大学音楽教育学会第 32 回大会（於：鹿児島女子短期大学）	2016. 8
口頭発表（単）	「ピアノが弾けた瞬間に何が起こるのか—サドナウの現象学的記述を手がかりにした『相転移』描出作法への序説—」全国大学音楽教育学会第 33 回大会（於：岐阜市：ホテルグランヴェー岐山）	2017. 8
口頭発表（単）	「ジョン・ケージにとってダダイズムとは何だったのか」日本音楽表現学会第 16 回大会（於：広島文化学園大学）	2018. 6
口頭発表（単）	「人の始原的音表現と前衛芸術の日常性概念」全国大学音楽教育学会第 34 回九州地区学会（於：尚絅大学短期大学部）	2018. 9
口頭発表（単）	「ジョン・ケージにおける自由とはいかなるものか—鈴木大拙の見地から—」日本音楽表現学会第 17 回大会（於：愛知教育大学）	2019. 6
口頭発表（単）	「幼児の音表現における自由とは何か」全国大学音楽教育学会第 35 回九州地区学会（於：Hotel 芙蓉倶楽部）	2019. 9
口頭発表（単）	「なりきり表現の本質に関する考察—ジル・ドゥルーズの哲学における生成変化論を援用して—」全国大学音楽教育学会第 37 回九州地区学会（於：鹿児島女子短期大学）	2022. 9
口頭発表（単）	「幼児の生成変化する表現はいかに作動するか—ドゥルーズ＝ガタリの哲学に基づく試論—」日本音楽表現学会第 22 回大会（於：山梨大学）	2024. 6
口頭発表（単）	「なりきりとごっこ遊びの対比—ドゥルーズ＝ガタリ『千のプラトー』に基づく考察—」日本比較文化学会関西支部 10 月例会（於：同志社大学）	2024. 10
口頭発表（単）	「歌のオノマトペは人間性の境界においてどのように働くのか」全国大学音楽教育学会第 40 回全国大会（於：アクトシティ浜松）	2025. 8